

令和5年度 学園祭

テーマ 『Share Smile～青春をともに分かち合おう～』

8/31文化祭①(弁論大会・文化講演) 9/1文化祭②(クラス、生徒会企画・模擬店・ステージ発表) 9/5(体育祭(出雲ドーム))



★文化講演
 講師 かみじょう たけし様
 代走みつくに様
 にしね・ザ・タイガー様
 演題 「～人との関わり、
 繋がり大切さ～」

★弁論大会
優勝 2年5組 (ジャパンプルー)
 2位 3年5組 (ロイヤルブルー) (Xフラッグ)
 2年2組 (パープル)

★弁論大会
最優秀賞 山崎 梨央 (3-6) (玉湯)
優秀賞 本田 紗月 (2-7) (出)



★体育祭Tシャツ
最優秀賞 3年6組
優秀賞 2年3組

★文化祭
弁論大会最優秀賞 田中 広人 (2-6) (出三)



出雲 北陵月報

No. 457

令和5年9月29日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、本年度の学園祭はほぼコロナ渦前の内容・形式に戻しての実施となった。

文化祭は1日目、松竹芸能様より講師をお招きして文化講演会を行い、弁論大会をライブ配信にて行った。2日目は各クラス企画、生徒会企画と、賑やかで工夫を凝らした催しとなった。

体育祭は5日に出雲ドームで開催され、大いに盛り上がった。

合唱部

第90回NHK全国学校音楽コンクール
中国ブロックコンクール

時 9月10日
於 廿日市文化ホール
ウッドワンさくらびあ

昨年度全国コンクールへの出場を逃したこともあり、全国コンクール出場を目指してかなり気合いを入れて取り組んできた。当日は、日頃の練習の成果を十分に出しきり、ハーモニーや音色の変化、更には表現の細部までこだわった演奏を繰り広げた。本番ステージを終えた生徒達の表情は歌いきった表情に満ち溢れ



ていた。しかし、結果は銀賞で全国コンクールへコマを進めることができなかった。近年、各校の実力が拮抗しており、中国地区の代表枠1校をめぐっての戦いは、熾烈さを極めている。今後更に細部にわたって精度を高め、音楽のクオリティを高めていきたい。

第62回中国合唱コンクール

時 9月23日
於 シンフォニア岩国

今回のコンクールは、NHKコンクールと課題曲、自由曲ともに違っていたり、諸般の事情により、なかなか思うように練習ができなかったりと、厳しい状況の中で本番を迎えることとなった。しかしながら本番では、練習の成果を十分に発揮し、ホール一杯に北陵サウンドを響かせ、悔いのない演奏をした。結果は金賞を受賞したが、惜しくも全国大会へコマを進めることはできなかった。今一度基本に立ち返り、来年度に向けて、取り組みを進めていきたい。

(顧問 布野浩志)

吹奏楽部

第36回全日本マーチングコンテスト島根県大会

時 9月17日
於 カミアリーナ

本年度は「惑星」をテーマにした委嘱作品をマーチングに取り組んだ。8月下旬から本格的に練習を再開し、約3週間程度という短い練習期間だったが、生徒達はよく努力し、本番では素晴らしい演奏演技を見せ会場を魅了した。結果、金賞を受賞し中国大会への出場権を獲得した。

10月に広島で行われる中国大会では、島根県代表としての誇りを持って演奏演技ができるよう引き続き精進していきたい。
(顧問 原田 実)

男子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月16・17日
於 浜山公園テニスコート

- 3位 川角光夢(12歳)・岡田隆聖(14歳)
- 7位 伊藤 快(24歳)・高橋海璃(23歳)
- B 32 田邊航汰(21歳)・板垣優吾(24歳)

○大会総評

新チームでの初めての公式戦であった。この夏たくさんの遠征、県外大会を経験した成果が少しずつではあるが見られ、新人戦でのシールド権を獲得できた。まだまだ課題が多いチームであるので、新人戦までの残り少ない期間を更に精進していきたい。



(顧問 佐々木雄志)

女子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月16・17日
於 浜山公園テニスコート

- 優勝 水永花音(25歳)・栗原奈々(15歳)
- 2位 杉谷 皐(13歳)・大庭萌愛(23歳)
- 3位 川角莉子(25歳)・岡本涼香(25歳)
- 5位 木村香夏(23歳)・森山音羽(25歳)
- 6位 果瀬暖花(23歳)・高野愛未(14歳)
- B 16 北井綺羅(25歳)・佐藤 楓(23歳)
- B 32 大野美空(21歳)・那須こはる(14歳)

○大会総評

今大会では上位を独占することができた。新人戦では更に飛躍できるようにしっかりと取り組んでいきたい。応援有難うございました。
(顧問 金森 快)



野球部

島根県秋季高等学校野球大会

2回戦 時 9月17日
於 松江市営野球場

本校	303000003
隠岐	010001000
8回コールド勝ち	2 9

3回戦 時 9月22日
於 松江市営野球場

本校	003000000
開星	000600001
大会総評	7 3

ベスト16で今大会を終えることと

なったが、新チームになってからの練習の成果を存分に発揮してくれた。格上の相手に対して、堂々と戦う姿は来夏へ向け弾みとなると感じた。また冬をどのように越えていくのか、課題がはつきりと見えた。当日は多くの方々

に球場に足を運んでいただきました。次は1年生大会がありますので、応援よろしくお願い致します。
(顧問 畑 宗一郎)

テニス部

島根県テニス新人大会

時 9月16・17日
於 石見海浜公園・益田運動公園

- 〈男子シングルス〉 2回戦敗退
- 〈男子ダブルス〉 2回戦敗退
- 〈女子シングルス〉
- ベスト16 長子七海 (21歳)

○大会総評

地区予選を終えてから練習試合を通して試合経験を積み、各自が課題を見つけられるよう取り組んだ。男子はまだ力不足だが、県大会の経験を積めたことは大きい。一方、女子はベスト8(シールド権獲得)を狙ったが格上選手に阻まれた。しびれる試合を経験できたことは今後の試合にプラスに働くと

陸上競技部

第69回島根県高校新人陸上競技大会

時 9月16・17日
於 益田

走高跳	3位 足立康佑 (24歳)
棒高跳	4位 片岡賢晴 (22歳)
5000m	5位 河原栄太 (26歳)
3000m	6位 河原栄太

【女子】

- 3000m 5位 小堀壹華 (25歳)
- 400m 8位 矢野有紗 (22歳)

○大会総評

今年度は8名が出場した。昨年に続き中国大会への出場権を2人が得た。ほとんどの選手が入賞、自己記録更新、自己タイ記録をマークするなど、夏の練習の成果を発揮できた。来シーズンの県高校陸上で更に一つ上を目指し、冬季練習に励みたい。

遠方のところ、応援にかけつけてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。
(顧問 別所美喜子)

写真部

令和5年度撮影技術大会

時 9月8・9日
於 三瓶国立青少年の家ほか

今年度の撮影技術大会は昨年度に引き続き、宿泊を伴う本来の形での開催となった。感染症が流行していたが、17校から170人を超える参加があった。東京工芸大学から5名の講師の先生方を招いて、撮影の基礎を学び、実際の撮影会で実践し、ワークショップで技術を上達させる実り多き大会となった。本校写真部員達は非常に熱心に作品講習に耳を傾け、楽しんでワークショップに参加していた。この経験を糧に撮影技術の向上に励み、自らの世界観を表現できるレベルに到達してもらいたい。



(顧問 村上 学)

美術部

令和5年度課題発表展



会場の様子

8月27日
本校美術棟
於 本校美術棟
一学期に制作した授業作品や部活動作品、夏休みに制作した自由制作の新作を中心に展覧会を行った。
運営から受付まで生徒主体の展覧会だったが、各自の真摯な取り組みが観た人に伝わる素晴らしい展覧会になった。多数の方にご来場いただき、有難うございました。
(顧問 飯塚康弘)

保育体験学習



○大会総評
上記の結果により、U-13の部で11月に徳島県で開催される全国大会への出場権を獲得した。今後更に日々の練習を頑張っていきたい。
(顧問 相場翔太)

9月6日に、3年生は市内の2箇所の幼稚園、保育園で保育体験実習を行った。子ども達と運動会の予行演習を一緒に行ったり、砂遊びなど、様々な活動を行った。
日頃は幼児と接する機会が少ない生徒達にとって貴重な経験をさせていたいただいた。お世話になった幼稚園、保育園の皆様、本当に有難うございました。

第45回全国高等学校家庭科保育技術検定

時 8月9・24日
於 本校
〈2級合格者〉 土江華音(34名) 松尾果歩(34名)

中学校

卓球部

全日本卓球選手権カデットの部 島根県予選大会
時 9月2日
於 カミアリーナ

【男子シングルス】
〈U-13〉 小林麟太郎(中廻)
〈U-14〉 波多間怜偉(中廻)
3位 波多間怜偉(中廻)
【男子ダブルス】
2位 波多間怜偉・松崎優樹(中廻)

令和5年度第19回少年の主張出雲市大会

時 9月4日
於 大社中学校

弁士 奥田竹虎(中廻)
演題 努力
今年は大社中学校(会議室)にて市内の15校の弁士が熱弁をふるった。本校代表の奥田さんは、家族との日常の会話の中で疑問に感じたことを自身が所属する部活動の体験に重ね発表

男子バスケットボール部

第4回島根県U15バスケットボール選手権大会 出雲・雲南地区1次予選会

時 9月2・3日
於 斐川第一体育館・斐川西中学校
第1試合 本校 77-49 三刀屋BBS
第2試合 本校 104-14 木次中
ブロンズ決勝 本校 25-34 UPSTART
予選リーグ2位通過
3位決定トーナメント
1回戦 本校 56-45 出雲二中
決勝戦 本校 81-54 出雲一中
3位入賞 県大会出場決定



○大会総評
一生懸命戦うことができたと思う。ご声援有難うございました。

第1回斐川バスケットボール大会2023

時 9月9日
於 斐川第一体育館
第1試合 本校 77-49 松江三中
準決勝戦 本校 64-54 Yonago
City SPARTANS
決勝戦 本校 28-26 MASUDA BANDITS

○大会総評
1・2年生だけで3試合戦い抜き優勝できたことは、選手達の自信になった。

たと思う。ご声援有難うございました。
(顧問 多々納厚比古)



秋のオープンキャンパス開催

時 9月17日

8月の夏のオープンキャンパスに続き、今月は秋のオープンキャンパスを実施した。朝から猛暑に見舞われたが、夏のオープンキャンパスに匹敵する人数の参加者を迎えた。
夏と同様、模擬授業・受験講座を実施し、その後部活動体験を実施した。ランチルームにも多くの生徒の皆さん、保護者の方々にお越しいただいた。

中学校でも授業・部活動体験はもちろん、パティシエ体験や粘土アートセサリー作りなど、中学校独自の行事も実施し、多くの小学生の皆さんにご参加いただいた。



美術体験講座の様子

作品と研究

令和五年度 学園祭

校内弁論大会 最優秀賞

『誰もが目の前に 食べ物がある世界へ』

田中 広人(2-6)

私は、あることを知ってから、食事をする時には米粒を一つも残さないように心掛けています。朝、昼、晩、自分の好きでない食べ物でも残すことのないように全て食べている。なぜ私がこのような意識になったのか。それは、フードロス問題と飢餓の問題を知ったからだ。

フードロスとは、食べられるはずの食品が廃棄されることだ。例えば、節分で食べる恵方巻やバレンタインのチョコレートなどがある。これらは季節が過ぎれば売れ残り、やがては捨てられる。日本の一年間の食品ロスは約六百十二万トン、世界では十三億トンもの食品が廃棄されている。日本の食品ロスは、国民一人あたり一日に茶碗一杯分を捨てて

いることになるようだ。

まず私は、これがあり得ないことだと思った。「食べられるものを捨てる」これだけを聞くと、意味の分からないことではないだろうか。売れ残ったから、もう食べられないから、季節が過ぎたから、そんな理由で簡単に捨ててもいいのだろうか。いいはずがない。確かに売れ残るといっては食べてくれる人がいないということになるが、それは、あくまで日本にある一つの店舗でのことだ。世界規模で見てもほしい。そこに見えてくるのが飢餓の問題だ。

世界では九人に一人の割合で、飢餓に苦しむ人がいる。食べ物がなく、来る日も来る日も空腹が続く。ましてや餓死してしまう場合もあるだろう。そんな残酷な現実なんて考えられるだろうか。少なくとも日本人の私には想像すらできない。なぜならお腹が空いたら目の前には食べ物があるからだ。それが当たり前だからだ。日本のような先進国では、そのような状況が普通だろう。しかし対照的に、どんなにお腹が空いても食べ物にありつけない人がいるのが現実だ。これは不公平極まりないこと

だと私は思う。人間は皆平等なはずではなかったのか。その上、その差が極端すぎではないだろうか。一方では食べ物にありつけない日々を暮らし、他方では食べ物があると手に入り、食べる人がいなければ処分する始末。この現状をどう思うだろうか。私は飢餓に苦しむ人々を素直にかわいそうと感じ、同時に自分に罪悪感も抱く。

そんな理由から、私は自分の食べるものは何があっても食べ切るように心掛けています。だから私は、平気で食べ残してしまう人や好き嫌いをするような人には不快な気持ちになる。あなたが残したその食べ物で何人が笑顔になることか。何人の命が救えることか。そう思っ

て考え直してほしい。そうすれば食べ物や簡単に捨てるなんて発想はなくなるだろう。

この問題は、社会が、世界が取り組むべき課題だ。実際に「SDGs」にも上がっていることのため、取り組みはな

されていることだろう。しかし、本当に大切なことは、社会がやってくれるだろうか。本当に大切なのは私達一人ひとりの意識なのではないだろうか。食べ切れない量を買わない、好き嫌いをしない、そのくらいの取り組みを、日本中、世界中の人々がすれば、フードロスもなくなるはずだ。そしてフードロスが解消された時に、飢餓に苦しむ人々の前に食べ物が届く日がやってくるのだろう。そんなことを考えながら、私は今日も最後の米粒を噛み締める。

今月の
1枚

令和6年度愛鳥週間用ポスター入選(全国出品)



愛鳥週間

陶山 和夏
(2-7)